

# ・ ブラストワンピース

## 目黒記念

7.4-11.0-11.0-12.2-12.0-11.7-11.8-12.0-11.6-11.7-12.0-12.0-11.8

前半-後半 3F : 35.5-35.8

前半-後半 5F : 59.4-59.1

当馬上り 3F : 35.8

超高速馬場の東京で行われたレース。

中盤も大きく緩む所はなく淡々とした流れで平均ペースのレースと言っていいでしょう。淡々と進んだ中でラスト 5F 最速でラスト 1F で再加速する流れ。

完全に東京の長い直線で脚を出し切った馬が有利の展開です。ラスト 1F 辺りで並びかけた後方馬によって再加速のラップになっています。

つまり前の馬に求められた適性もそれを凌ぐだけの後半要素の総合力。主にはロンスパ性能だったレースです。

展開で言えばラスト 5F 最速を前目から出し切って勝利した有馬記念とほぼ同様の適性が求められたレースなので崩れた理由はここにはないでしょう。

一番可能性の高いのは超高速馬場だったという事になると思います。ここに原因を求めるのが現状が一番理にかなっているでしょう。

淡々と時計を求められ続けるのは苦しく、ある程度前後半のメリハリは欲しいタイプではないでしょうか。同じ平均ペースでも淡々と早いのか、遅い所と早い所がありながらも平均で考えると流れているのかの 2 種類があります。

この前者が目黒記念で後者が有馬記念なのでこの差。そして前者になりやすいのが超高速馬場です。

## 大阪杯

12.6-11.1-12.7-12.7-12.2-12.4-11.8-11.4-11.6-12.5

前半-後半 3F : 36.4-35.5

前半-後半 5F : 61.3-59.7

当馬上り 3F : 35.3

これはキセキにしてやられたといってもいい展開での敗戦。

前半は12番手付近で控えめの競馬で捲れるところで捲っていく体制を整えながらレースを進めました。ラスト4F辺りから前に進出していく動き出しを見せましたが案外差を詰め切ることができず。

これはラスト4Fから前も加速していく流れになった事に加えて、ラスト3F最速の大阪内回りにおけるコーナーでの最速となり、捲るにはかなり苦しいラップになりました。

コーナー最速なのでここで捲ろうとすると大きく外へ膨らむ力が働いてしまいます。そしてこの馬も例に漏れず外に膨らんで直線へ。

直線段階で前との差も大きく外に膨らんだ分ワンテンポ遅れてしまいました。そして最後まで差を詰めるものの届かずの6着まで。

ペースも早くなかったですし、ラスト4Fでの動き出しでもう少し前の馬に干渉できる位置取り、つまり前目を取っていればチャンスはあったレースでしょう。ここは前半少しゆったり行き過ぎたのが敗因と言えそうです。

## 有馬記念

6.8 - 11.6 - 11.8 - 11.9 - 12.2 - 12.8 - 12.6 - 12.2 - 11.6 - 11.8 - 11.8 - 12.2 - 12.9

前半-後半 3F：36.2-36.9

前半-後半 5F：60.7-60.3

当馬上り 3F：35.7

稍重馬場で行われた有馬記念。前半からやや流れて平均気味のペースを中団外目からの競馬に。キセキがやや離れた先頭ですが、差は据え置きでほぼレースラップ通りの流れに。

ラスト 5F 最速の早仕掛けを外からついて行く、平均ペースからロンスパの非常にタフな競馬になったレースです。中盤要素から問われた展開で、そのタフなレース展開を勝ち切ったのは素直に評価できます。

結果的にはラスト 5F 最速のロンスパ戦でねじ伏せた形になりましたが、終わってみればキセキの平均ペースでの逃げ、早仕掛け展開がド嵌りした格好とも言えるでしょう。コーナリング性能も見せましたし、ロンスパ戦への適応力は高いレベルで持っていそうです。

斤量差なければ対レイデオロはやや厳しかったと思いますが、2 番目に強い競馬をしたのは間違いないでしょう。

## 菊花賞

12.8 - 11.9 - 12.5 - 12.9 - 12.6 - 12.4 - 13.3 - 13.0 - 12.8 - 12.7 - 12.8 - 12.2 - 12.2 - 10.7 - 11.3

前半-後半 3F : 37.2-34.2

前半-後半 5F : 62.7-59.2

当馬上り 3F : 34.1

長距離といえど例年と比べても比較にならないほどの超スローペース。これを中団やや後ろ目といった控えめなポジションで道中進めたレース。そして、超スローペースからラスト 2F まで 11 秒台にさえ入らない完全なる直線瞬発力勝負になりました。

映像で確認すると、ラスト 2F の最速地点で上位 3 頭の馬に差をつけられている事がわかります。このレベルのスローからのギアチェンジでは見劣り。そしてその差を最後詰め替えしたものの、4 着までという内容。

また、ラスト 3F 地点から上位 3 頭に比べて外に進路を取り、やや仕掛け気味に直線に入った中で、完全直線勝負に割り切った伏兵に敗れる形になったレースでもあります。

もう少しロンスバ気味の競馬の方があっているのはここでも見受けられました。しかし、あまりに特殊な展開で瞬発力勝負に問題ありとまではこの結果だけでは言えないでしょう。

むしろ、瞬発力勝負の中で勝ちに行ったのが結果的に嵌らなかった。その中で 4 着は頑張ったと言えますし、瞬発力勝負にもある程度対応できる面を見せたと受け取っても良さそうです。

## 新潟記念

12.9 - 11.1 - 11.6 - 11.7 - 11.9 - 11.9 - 11.8 - 11.7 - 10.7 - 12.2

前半-後半 3F : 35.6-34.6

前半-後半 5F : 59.2-58.3

当馬上り 3F : 33.5

中盤も締まったラップ構成ながら、上り 33 秒台の高速馬場での一戦。最内枠からポジションは一切主張せずに後方に収まっての競馬。直線向く段階で進路を馬場の良い大外を取る事だけを狙った騎乗でした。

中盤も大きく緩む事はなかったですが、流石にこれは馬場の恩恵が大きく、スローからのラスト 2F 最速戦と見ていいでしょう。

当馬はポジション的にラスト 3F 地点でも速い脚を使っていますが、ラスト 2F 地点で先頭との差を潰しているので、10 秒台中盤まで使っている事になり、この脚が他馬と比べると際立っていました。

ラストは差を潰されているので、一気に脚を使うと脆いか？という点は今後の懸念材料にはなり得るでしょう。

## ダービー

12.7 - 11.0 - 12.3 - 12.4 - 12.4 - 12.3 - 12.2 - 12.0 - 11.7 - 11.2 - 11.2 - 12.2

前半-後半 3F：36.0-34.3

前半-後半 5F：60.8-58.3

当馬上り 3F：34.5

レースラップ通り、スローからのラスト 4F のロンスパ戦。当馬自身もレースラップ通り流れに乗って直線へ向く形になりました。

ラスト 3F 最速地点では先頭との差は据え置きで 11.2 あたり。しかし、ここで前が壁になり外に出そうにも隣にはワグネリアンで進路が上手く確保できずにラスト 2F へ。

ラスト 2F の中盤あたりで前を捌くのを諦めて外に出す選択を取り再度追い出し。そこから先頭との差は縮めるものの僅差の 4 着まで。

ロスの大きい競馬ながら、後ろで溜めたエタリオウに詰められた以外はラスト 1F で差を詰める競馬でロンスパ戦への適応力を見せました。

また、一度進路を取り直しながら再度詰め替えすまでが早く、ギアチェンジ性能の高さも見せてきた好内容で最も強い競馬をしたのは当馬だったと言っても過言ではない内容。

## まとめ

後半要素の総合力の高さが武器。また、それを中団よりやや前からでも発揮できるのがポイント。後半要素の総合力の高さ×前半中盤要素も水準並に兼ね備えているのが、大崩れしない要因。

後半要素の総合力の高さが魅力であり、極端な瞬発力勝負では分が悪い相手もいるにはいますが、これは自らが中盤から動いていけば問題ないので、騎乗次第で対処できるので大きな欠点にはなり得ません。

中盤から動けるのか否かのポイントはコーナーで加速できるかのか？と言い換える事もできますが、その点も問題ありません。

負けるのは直線勝負に寄せすぎる騎乗を行った場合と、自身より前に同型がいた場合には、その馬と瞬発力勝負になるので負ける場合ありという具合でしょう。

ここまではレイデオロとかなり似たタイプと言えます

レイデオロとの能力絶対値の比較で言えば、ややロンスパに適正が寄っている印象はあるものの、現状で大きな差異は見えず、道中のポジション次第というレベルで、現時点では現役でも屈指の能力評価で問題ない馬。

ただロンスパ寄りな分、現状では距離はあった方がいいという見方もできるので、距離への融通はレイデオロに分があると言えるでしょうか。

あと、目黒記念で見せた超高速馬場への不安は現状意識した方がいいでしょう。タフな馬場ならば見限りは不要と判断しています。

## 注意点

- ・ 距離短縮でやや注意必要
- ・ 流れに乗るタイプへの騎手替わりは単危険あり
- ・ 明らかな前哨戦は余力残しの直線勝負する可能性ありで逃げ先行警戒
- ・ 超高速馬場に不安あり